

## 2021年度「大学教員の企業現場研修」開催報告

本事業は、大学教員の教育力向上を支援するため、賛助会員の協力を得て情報産業における事業戦略の動向、若手社員を交えた大学での学びに対する要望などの意見交換を通じて、授業改善に向けた気づきを提供するために実施している。本年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、初めてオンライン(Zoom 使用)で実施し、43 大学 58 名が参加した。

### 1. 開催日時

日 時： 2022年2月15日(火) 12:30~17:15  
会 場： オンラインによるテレビ会議形式 (Zoom 使用) で開催

### 2. プログラム概要

12:30	Zoom 接続開始
12:50	開会挨拶
13:00~14:00 【日本電気株式会社】  切替 5分	<p>(1) 事業戦略の紹介 (15分) NECは、安全・安心・公平・効率という社会価値を創造し、DXの推進を通じて、誰もが人間性を十分に発揮できる持続可能な社会の実現を目指しています。DX推進企業としてNECの事業概要と、DXの実現に向けて社内で推進している「Smart Work 2.0」の取り組みをご紹介します。</p> <p>(2) 若手社員との意見交換 (45分) 社会人になってから今までの経験を通じて、大学時代にやっておけば良かったと思うことや、大学時代に役立った経験・授業はどのようなことだったのか等について若手社員から発表し、意見交換を行います。</p>
14:05~15:05 【株式会社内田洋行】  切替 5分	<p>(1) 事業戦略の紹介 (15分) 文科省が進める児童・生徒1200万人の利用を目指した「学習やアセスメントができるCBTシステム(オンライン学習システムMEXCBT)」の実証研究支援や100万人の生徒が受験する「全国学力・学習状況調査」の受託等、様々な取組みの中で得られた知見と教育DX実現に向けた事業戦略を紹介します。</p> <p>(2) 若手社員との意見交換 (45分) システムエンジニア及び営業若手社員から業務内容、必要なスキル、ICT企業の最新の課題や実態、また大学時代に役立った経験や大学への要望などを発表し、その後参加者のみなさまとの意見交換を行います。</p>
15:10~16:10 【株式会社日立製作所】  切替 5分	<p>(1) 事業戦略の紹介 (15分) 日立はOT・IT・プロダクトを結びつけて新たな価値を生み、社会課題を解決する社会イノベーション事業の一環として、「Lumada」を立ち上げました。Lumadaは、これまでの知見やお客さまとの協創により蓄積したデジタル技術を活用して、新たな価値を創出する仕組みです。Lumadaを用いて社会課題を解決することで「人々のQuality of Lifeの向上」と「顧客企業の価値向上」の実現をめざす取組みの事業戦略を紹介します。</p> <p>(2) 若手社員との意見交換 (45分) 営業部門とSE部門の入社3~4年目の若手社員から業務内容、必要なスキル、最新の課題や実態、大学時代に役立った経験や大学への要望などを発表し、意見交換を行います。</p>
16:15~17:15 【富士通 Japan 株式会社】	<p>(1) 事業戦略の紹介 (15分) 富士通 Japan は日本が抱える社会課題、地域に根差す課題をデジタル技術によって解決を図ることで社会に貢献していきます。DXを強力に推進し、日本の持続的な成長を支える取り組みについて紹介します。</p> <p>(2) 若手社員との意見交換 (45分) 若手社員から現在の仕事の内容や経験を踏まえ、大学時代に役立った授業や学ぶべきこと、大学に対して望みたいことなどについて発表し、意見交換を行います。</p>
17:15	閉会挨拶

### 3. 参加者の声（アンケート）

令和3年度 産学連携事業「大学教員の企業現場研修」参加者のアンケート集計結果

アンケート回答者25名を集計

令和4年2月15日（火）開催

1. 研修で大学の授業現場で役に立ちそうなことはあったか		① あった	② どちらともいえない	③ なかった
	回答数	18	5	2
	回答割合	72.0%	20.0%	8.0%
※ 参加者の72%が、今回の研修が大学の授業現場で役に立つと回答している。				
2. この研修を他の教員にも紹介したいと思うか		① 他の教員にも紹介したいと思う	② どちらともいえない	③ 思わない
	回答数	20	3	2
	回答割合	80.0%	12.0%	8.0%
※ 参加者の80%が、今回の研修を他の教員にも紹介したいと思うと回答している。				
3. 大学教育に求められる取組みについての意見	① 講義が役に立ったという意見は少なく、実験・研究やプレゼンテーション等が社会で役立っていることが分かった。理系・文系を問わずインターンシップのような現場を想定した教育の必要性を感じた。			
	② 大学でどのような教育をしていくかについて、考え直す良い機会になりました。中でも、情報産業の中で若手社員が実感している文系の出身者の強みはとても参考になり、学生に伝えていきたいと思いました。			
	③ 大学で学んでおけば良かったこと、大学で学びたいことなど卒業生（若手社員）から聞くことは興味深く参考になった。			
	④ 学生の質に適した教育システムを独自に策定し、学生の気づき、主体性を伸ばし、育む教育が肝要と思う。			
	⑤ PBLや海外大学とのオンライン教育連携なども求められており、よりインタラクティブな学びが求められていることが分かりました。			
	⑥ 若手社員からPBLなどで多様な意見を知り、批判的に考える力を高める発表などが役立っていると聞き、授業改善の必要性を強く感じた。			
	⑦ 専門知識を教えるだけでなく、社会で生き抜く力を身に付けさせることが重要。何を教え、どんな学生を育てるのが明確なビジョンを持って学生指導にあたるようシラバスの見直しが必要と感じた。			
	⑧ 企業の目指す方向や社会的背景などの説明が大変ためになった。最新の情報を活用して授業を改善していきたいと思う。			
	⑨ 若手社員から大学時代に「エクセルなどのPCの使い方」をもっとやっておけばよかったと言われたのは印象的だった。			
	⑩ 若手社員の多くが社会に出て、ICTスキルの必要性を挙げていたが、情報基礎1科目だけでなく4年間のすべての学びの中でICTを活用した問題解決やアウトプットを戦略的に繰り返し経験させることが必要。まずは教員の意識改革・授業改善に取り組む必要がある。			
	⑪ 企業がどのような人材を期待しているのかのイメージを持つことができ、大変役に立った。			
4. 大学教員の企業現場研修全般についての意見	① 各社の若手社員から大学時代に役に立ったことをアンケートなどで集計し、フィードバックしていただくと教育改善に活用できる。			
	② 学生は大学でも成績偏重主義で、学生のニーズが講義で好成绩をとることに向かっているが、その点に早く気づきを与えたい。			
	③ オンラインでは一部の意見がフォーカスされがちである。実地での交流の方が面白い意見交換ができるので対面での実施を望む。			
	④ 私情協の研修はテーマも魅力的で参加したいものが多い。オンラインだと参加しやすいので継続して欲しい。			
	⑤ オンラインで開催で遠方からでの参加できたのが良かった。実施時期、内容については問題なくテーマは非常に興味深く良かった。			
	⑥ 新学期を迎える前、成績登録が済んだこの時期の開催は有難かった。今後も更り多い内容で計画して欲しい。			